

## 1. 自己紹介:

氏名: 安 洋巳(やす ひろみ)、生年:1965 (S 40)

所属・役職: 日本工営(株) 地球環境事業部、シニア・スペシャリスト

資格: 博士(農学)、技術士(森林部門一林業、環境部門一環境保全計画)

現行業務: GCF (Green Climate Fund)資金活用のJICA案件第1号の総括

## 2. これまでに従事したADB 4 案件:

1) 2014~2016: ADB/TA-8592 VIE: Improving Payment for Forest Ecosystem Service (PFES) Implementation (iPFES) 総括

2) 2018~2022: ADB/TA-9248 MYA: Rural Productivity and Ecosystems Services Enhanced in Central Dry Zone Forest Reserves 総括

3) 2019~2021: ADB/Grant-0433 VIE: Greater Mekong Sub-region Biodiversity Conservation Corridors Project (Additional Financing) 総括

4) 2022~Present: ADB/TA-6843 VIE: Unlocking the Potential for Climate Change and Disaster Resilient Multi-sector Provincial Project in Lao Cai and Hoa Binh provinces 災害・気候変動専門家

## 3. 案件運営から学んだADBの案件の特徴:

- (i) 課題をとらえるフレームと重要コンセプト、独自の用語: ADB Policy and Program, Regional-National-Local levels, Multisector-Single Sector, Global Issue: Climate Change, Green Economy, Clean Energy, Gender and Human Rights, etc.
- (ii) 様々な種類の案件:CDTA, RETA, TRTA・・・ADBの基本方針と相手国政府の位置付け、コンサルタントの立ち位置の違い
- (iii) 幅広い内容のDMF (Design and Monitoring Framework) とTOR
- (iv) 相手国政府・社会に対するインパクト・協力効果とPost-Projectの普及展開を重視
- (v) National Expertの重点的活用:International Expertの役割を規定

## 4. 案件への応札と運営から学んだADBが応札業者に求める資質・スキル:

- (i) 英語文献・既存情報の収集・レビュー・要約力:短期間で大量に
- (ii) 案件のコンセプト・フレームを具体化できる構想力・対話力:コンセプトとフレームから始めて、それを具体化する。
- (iii) 関係者の多様な理解・意見を統合的なフレームの中で整理して示す力
- (iv) メンタルな強さ:ダメージからの迅速な回復力(特に総括担当者)

## 5. 案件運営ルールの特徴:

- (i) プロポーザル: 極論すれば、応札業者の実力を評価するためのもの ← 実施を想定した詳細な提案内容の可否を検討するものではない。
- (ii) 業務開始2ヶ月後に提出する “Inception Report” が実質的な業務実施計画。活動詳細と予算の確定。“Provisional sum”の用途を具体化。
- (iii) 運営を規定する複数ルールの存在: ADBの “Operation Policy”(OP) と International Fundの “Policy Guideline”, 相手国政府の諸規則
- (iv) Chief Technical Advisor/Team Leader, International Expert, National Expert, Supporting Staff の明確かつ効果的な役割分担
- (v) 簡素な会計業務と契約変更の仕組み: On-line 精算システム “TA Claims Partner”の活用。契約変更ではContingencyの活用。
- (vi) コミュニケーションと成果品の言語: 基本的に英語のみ。日本語を使わないので非常に楽。現地語が使えるとより良い。

## 6. 「初のADB受注案件」を実現するために:

- (i) ADB案件への強い動機づけをもつ社員と、それを全面的に支える上司の存在。会社組織の明確な方針(国際機関案件への挑戦)
- (ii) 案件プレ公示情報の定期レビューと社内関係者との共有
- (iii) 現地子会社との協力
- (iv) EOI作成の可否が試金石:「少し背伸びすれば取れる」案件から取っていく←そのための努力は不可欠
- (v) プロポーザル作成への手厚い社内支援
- (vi) 失注後のADB担当者への敗因聴取:「次回の応札」のために有効

以上